

令和6年度事業計画 及び一般会計歳入歳出予算



茨城県支部

1. 令和6年度事業計画

「人間のいのちと健康、尊厳を守る」という赤十字の使命を果たすためには、職員とボランティアが一丸となって事業を推進することが重要である。

ついては、大規模化・頻発化する自然災害から備えることを目的に、防災セミナーや防災教育事業の推進、防災関連イベントを実施し、地域防災力の向上に努めるほか、継続的なボランティア研修の実施や社会福祉協議会等の関係機関との連携を強化し、ボランティア主体の活動充実を図ることとする。

一方、日本赤十字社の活動を支える活動資金の収入状況は、引き続き厳しい状況にあり、今後も、赤十字の活動を維持していくためには、より多くの県民の皆さまからのご理解とご協力を賜り、活動資金確保に努める必要がある。

このことから、令和6年度は以下（1）～（4）を重点として事業を進めていくこととする。

- （1）災害救護体制の強化**
- （2）ボランティア主体の活動充実**
- （3）広報活動の充実と活動資金の確保**
- （4）DXの推進、GXへの対応**
- （5）救急法等の講習**
- （6）赤十字奉仕団**
- （7）青少年赤十字**
- （8）国際活動**
- （9）看護師の養成**

(1) 災害救護体制の強化

災害時において、適切な救護活動を行えるよう支部及び他支部との合同で訓練を実施するとともに、首都直下地震など大規模災害に備え、災害対応能力の強化と救護活動に必要な資機材等の充実を図る。

① 訓練：茨城県支部

- ・ 常備救護班員等災害救護訓練
- ・ 常備救護班主事等研修会

② 訓練：第2ブロック支部

- ・ 第2ブロック支部総合訓練
- ・ 第2ブロック支部先遣要員訓練
- ・ 被災地支部災害対策本部運営・支援訓練

③ 訓練：他機関との連携【新規】

- ・ 市町村等関係機関（県建設業協会等）との防災訓練
- ・ 市町村社協災害ボランティアセンター運営訓練

④ 救護班や支部に整備する資機材

- ・ 災害救援車
- ・ 投光器
- ・ 救護活動用タブレットPC



令和6年能登半島地震
避難所巡回診療

(2) ボランティア主体の活動充実

地域における赤十字活動の推進者であり、地域の実情に精通した地域奉仕団など、赤十字ボランティアの主体的な社会活動を強化する。

① 地域防災力向上のための取り組み

自治体や地域の団体、学校が開催する研修に防災ボランティアリーダーや賛助奉仕団を派遣し、地域住民や児童 生徒を対象に防災・減災の知識や技術を普及する。



小学校での防災教室

② ボランティア研修の継続的な実施

地域奉仕団、特殊奉仕団、青年奉仕団を対象に基礎研修会やリーダー研修会を開催する。

他県支部青年赤十字奉仕団との交流会や地域特殊奉仕団を対象とした視察研修を開催する。

青少年赤十字賛助奉仕団を対象に防災教育の指導者養成研修を開催する。



茨城県支部と千葉県支部の
青年奉仕団交流会

③ ボランティア団体との連携

社会福祉協議会などのボランティア団体と連携し、地域住民に対する健康生活支援講習を開催するほか、防災士会などの他団体と協力して防災に関する研修を開催するなど、地域とより結びついた活動の場の拡大を図る。

(3) 広報活動の充実と活動資金の確保

① 広報活動の充実

- ・茨城県支部オリジナル卓上カレンダーを作成・配布し、支部事業をPR **【新規】**
- ・広報紙「日赤茨城」などの配布や、マスメディアへのタイムリーかつ具体的な情報提供

② 活動資金の確保

・令和6年度活動資金募集額 **3億7,500万円（前年度と同額）**

内訳 ※（ ）内は前年度との比較増減額

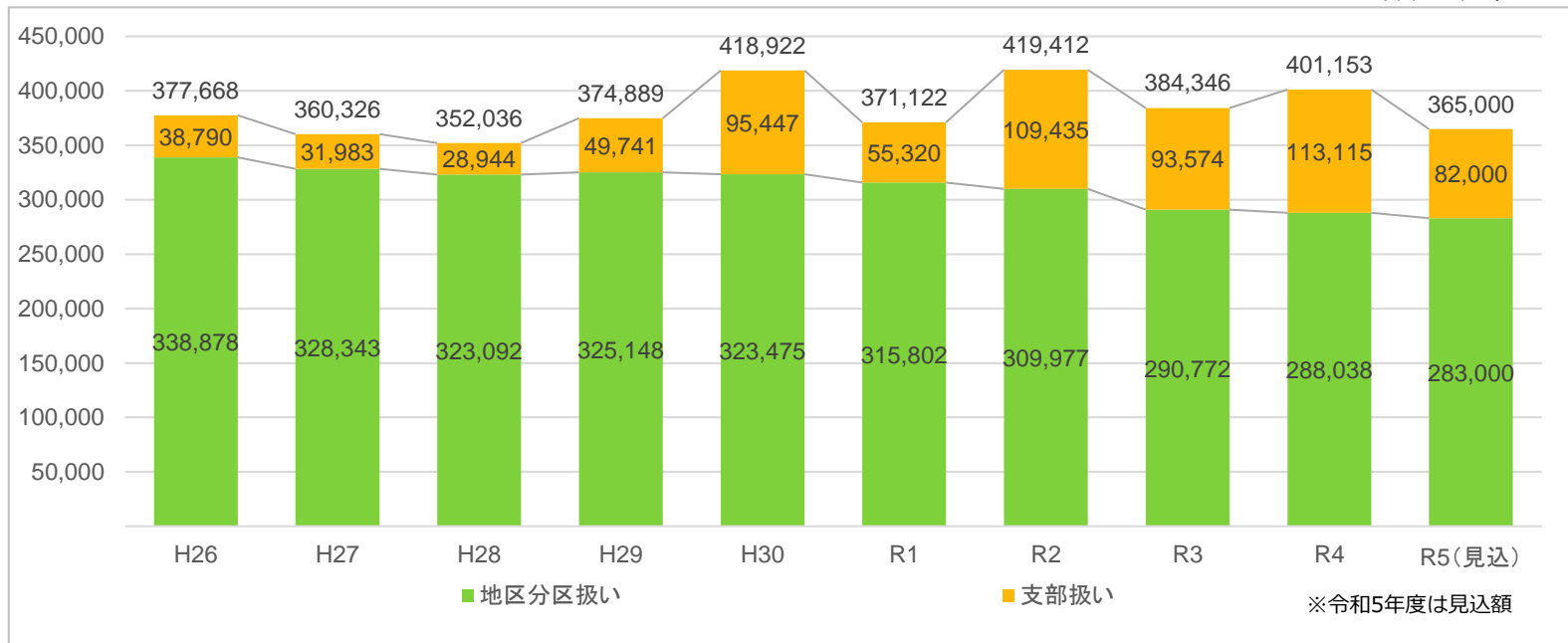
地区分区扱い	3億1,500万円(△500万円)
一般社資(世帯等)	2億7,500万円
法人社資	4,000万円
支部扱い	6,000万円(500万円)
一般社資(世帯等)	4,500万円(500万円)
法人社資	1,500万円
合計	3億7,500万円
一般社資(世帯等)	3億2,000万円(前年度と同額)
法人社資	5,500万円(")

(3) 広報活動の充実と活動資金の確保

② 活動資金の確保

【活動資金の推移】

(単位：千円)



現況と課題

- ・ 活動資金の基盤となる地区分区扱いの「町内会(世帯)等からの活動資金」は、人口の減少や町内会への未加入世帯の増加等に起因し、減少傾向にある。
- ・ 町内会経由の活動資金募集は重視しつつも、減少額を補完するため、法人への働きかけの強化など多様な募集方法に取り組んでいく。

(3) 会員の増強と活動資金の確保

- 令和6年度の目標額を確保するため、以下の5つを柱とし積極的に施策に取り組む。

取り組みの柱	主な施策
地区分区との連携	<ul style="list-style-type: none"> 地区分区の協力を得て、町内会等を通じて広報紙を配布し、赤十字活動への理解促進や活動資金への協力を呼びかけ
既存会員の継続性向上	<ul style="list-style-type: none"> 広報紙等による事業成果報告及び礼状による謝意を伝え、継続支援を依頼 災害発生時は災害速報により救護活動情報を発信し、活動資金協力を呼びかけ
新規会員の獲得	<ul style="list-style-type: none"> 自動車免許取得者等へ救急法チラシを配布し、活動資金協力を呼びかけ 【新規】 義援金寄付者等へダイレクトメールによる活動資金協力を依頼 個人の祝事記念や法人・団体の周年記念で活動資金協力を依頼 クレジットカードやスマホアプリなどによる寄付協力方法の周知
法人寄付の受付推進	<ul style="list-style-type: none"> 企業データを分析・活用してきめ細やかな資金協力を依頼 業界団体を通じて、団体会員へ活動資金協力を依頼 地元企業を訪問し活動資金協力を依頼
遺贈等寄付の受付推進	<ul style="list-style-type: none"> 「水戸みやぎん寄席」を会場に遺贈・相続財産寄付セミナーを開催し、支部への寄付の呼びかけ 【新規】 地元地方金融機関と連携して、遺贈・相続財産寄付の推進

(4) DXの推進、GXへの対応

①DXの推進

急速に進む社会のデジタル化を踏まえ、令和4年度に立ち上げた「茨城県支部管内施設デジタル推進検討会」において、赤十字事業のサービス向上、業務の効率化に資すよう継続してDXを推進する。

- ・外部専門家（DXアドバイザー）の知見を活用し、古河赤十字病院において、AI-OCR（画像から文字認識しデータ化する機能）の導入や、電子サインの活用などに取り組み、その成果を踏まえ、茨城県支部管内施設に展開する。

②GX（グリーン・トランスフォーメーション）への対応

激甚化する水害や猛暑など、気候変動の影響は多くの人々の脅威となっていることから、気候変動の緩和に向けた取り組み（温室効果ガスの排出量削減など）を推進する。

- ・公用車両をハイブリッド車、PHV、EV等の環境対応車へ切り替えるとともに、電気の使用量の削減、空調設備や照明の省エネ化を行い、環境に配慮した事業運営を行う。

(5) 救急法等の講習

① 地域組織や教職員等に対する救急法等の普及促進

・一定の条件を満たした団体（自主防災組織や社会福祉協議会等）に対する講習開催費用の免除や教職員向け救急法の開催等により、救命手当の知識と技術の普及を図る。



救急法講習

《 講習開催計画 実施：276回 受講者：12,768人》

講習区分		救急法		水上安全法		健康生活支援講習		幼児安全法	
		実施回数	受講者数	実施回数	受講者数	実施回数	受講者数	実施回数	受講者数
		(回)	(人)	(回)	(人)	(回)	(人)	(回)	(人)
基礎		48	944						
養成		23	556	10	130	3	45	6	94
短期	対面型	96	3,672	9	309	18	600	35	696
	オンライン	19	3,180					9	2,542
合計		186	8,352	19	439	21	645	50	3,332

(6) 赤十字奉仕団

① 奉仕団の結成促進と団員の確保

- ・ 地域奉仕団未結成地区の市（地区）と連携して、奉仕団の結成に取り組む。
- ・ 青少年赤十字（JRC）卒業生等を対象とした青年奉仕団を結成し、卒業後の赤十字活動の場を新たに提供する。【新規】



基礎研修会

② 奉仕団活動の活性化

- ・ 基礎研修会、リーダー研修会等を開催する。
- ・ 奉仕団活動における課題等を地域赤十字奉仕団活動活性化委員会において協議する。

③ 地域防災力向上のための防災・減災への取組み

- ・ 防災ボランティアリーダーや賛助奉仕団員と連携し、地域住民や児童・生徒を対象に防災セミナーを開催し、防災・減災の知識や技術を普及する。



防災・減災セミナー

《地域奉仕団》

30 市	5,962人
12 町村	590人
合計	6,552人

《特別奉仕団》（令和5年12月31日現在）

特殊奉仕団	9 団	747人
青年奉仕団	2 団	58人
合計		805人

(7) 青少年赤十字 (JRC)

① 青少年赤十字活動の充実と加盟促進

- ・リーダーシップ・トレーニング・センター(2泊3日)を中学生、高校生合同で実施する。
- ・市町村教育委員会や校長会等に対し、JRC加盟校は新たに救急法等の講習開催費用が免除されることとなったことなど、JRC加盟のメリットを広く啓発し、青少年赤十字への加盟促進に努める。



リーダーシップ・トレーニング・センター

② 防災教育の促進

- ・JRCメンバー向けに日赤防災教材「まもるいのちひろめるぼうさい」のオンラインセミナーを開催する。【新規】



海外メンバーと交流する高校生メンバー

③ 国際交流事業の推進

- ・北関東3県支部の共同事業として、JRCメンバーをマレーシアの赤十字社に派遣する。【新規】

《加盟校数》

(令和5年12月31日現在)

幼・保	小学校	中学校	義務教育学校	高等学校	中等教育学校	特別支援学校	通信制	合計
7	152	93	4	70	4	3	2	335

(8) 国際活動

① 国際開発協力事業の推進

- ・北関東三県支部及び埼玉県支部が共同して、バヌアツ赤十字社による防災教育事業や、バングラデシュ赤新月社による保健医療支援事業に資金援助を行う。

② 国際要員の育成

- ・日本赤十字社が海外の被災地等に派遣する国際要員を育成するため、意欲ある職員を対象に、語学学習等を支援する制度を設けるなど、支部の国際活動の強化を図る。

③ 海外たすけあい募金キャンペーンの実施

- ・紛争や災害、病気で苦しんでいる世界各地の人々を支援する募金キャンペーンを実施する。

(9) 看護師の養成

日赤看護大学生に対する奨学金貸与

- ・日赤看護大学に在籍し、卒業後は茨城県内の赤十字病院への就職を目指す学生を支援するため、引き続き3名の学生に対し奨学金を貸与する。



※生徒に対し、防災能力を高め、防災知識を教えている様子



※日赤看護大学での実習

2. 令和6年度歳入歳出予算

(1) 歳入予算

(単位：千円)

科目	R6予算	R5予算	増減	備考
社資収入	375,000	375,000	0	・一般社資（個人受付分）（320,000） ・法人社資（法人受付分）（55,000）
補助金及び交付金収入	3,607	2,176	1,431	・本社主催会議への出席に係る旅費助成金（645） ・本社から支部に対する補助金（2,962）
繰入金収入	2,300	1,000	1,300	・国際活動のための特別会計からの繰入金 北関東3県支部赤十字国際交流事業再開による 国際活動資金（1,300） バングラデシュ保健医療支援事業（500） バヌアツ青少年赤十字事業（500）
資産収入	2	2	0	・地代収入（電柱1本）
雑収入	5,941	4,963	978	・講習会等負担金収入（5,659） ・その他雑収入（282）
前年度繰越金	※1 107,610	72,194	35,416	
合計	494,460	455,335	39,125	

(※1) 令和5年度決算見込

572,323千円（歳入）－ 464,713千円（歳出）＝ 107,610千円（令和6年度への繰越金）

(2) 歳出予算

(単位：千円)

科 目	R6予算	R5予算	増 減	備 考
災害救護事業費	56,167	56,097	70	・災害救護訓練等費 (30,268) ・救護資機材等購入費 (24,121) 災害救援車、投光器、ノートパソコン、寝袋、無線点検など
社会活動費	63,543	61,574	1,969	・救急法等講習経費 (30,811) ・青少年赤十字事業費 (16,921)
国際活動費	1,136	1,051	85	・バングラデシュ保健医療支援事業 (500) ・バヌアツ青少年赤十字事業 (500)
指定事業地方振興費	12,650	8,650	4,000	・市町村への救護装備配備事業等 (12,650) 災害救援車、倉庫、テントなど
地区分区交付金	58,400	58,400	0	
社業振興費	61,133	59,819	1,314	・社資募集関係費 (35,702) ・広報活動費 (25,431) 広報紙発行費、新聞・ラジオ広告費、カレンダー作成費など
基盤整備交付金 ・補助金	200	400	△200	・日本赤十字看護大学への補助金
積立金	96,418	49,305	47,113	・災害等資金積立金 (35,000) ・施設整備準備資金積立金 (53,000)
総務管理費	75,293	75,793	△550	・人件費、社会保険料、職員健康管理費など
資産取得及び 資産管理費	13,555	27,268	△13,713	・メンテナンス費 (13,555) 倉庫外壁修繕、裏門扉の修繕など
本社送納金	52,965	53,978	△1,013	
予備費	3,000	3,000	0	
合 計	494,460	455,335	39,125	

令和6年度事業計画 及び医療特別会計歳入歳出予算



水戸赤十字病院

1. 令和6年度事業計画

(1) 病院の特徴

①病床数 許可病床：387床 実働病床：325床

②診療科 25診療科

③特 徴

- ・ 地域災害拠点病院
- ・ 第二次救急医療施設
- ・ 茨城県がん診療指定病院
- ・ IIR 診療拠点病院
- ・ 基幹型臨床研修病院
- ・ 緩和ケア病棟
- ・ 人間ドック施設 等
- ・ 地域医療支援病院
- ・ 地域周産期母子医療センター
- ・ 地域リハビリテーション広域支援センター
- ・ 第二種感染症指定医療機関
- ・ 病院機能評価認定施設
- ・ 地域包括ケア病棟

④職員数 655人(常勤換算数)

医師：83人 看護師：326人 医療技術者：94人 その他：152人

(2) 重要施策

- ① 健全経営の実現
- ② 災害対応
- ③ DX（デジタルトランスフォーメーション）の推進
- ④ 人材の確保・育成
- ⑤ ブランディングの推進
- ⑥ 将来構想への対応

(2) 重要施策

① 健全経営の実現

- ・患者数の減による医業収益の減少や、物価高騰による医業費用の増大により、病院の収益が著しく悪化していることから、経営健全化に向けた取り組みが喫緊の課題となっている。
- ・このため、①不足する医師の確保による診療体制の充実・強化 ②地域医療機関との連携強化による紹介患者の確保 ③令和6年度の次期診療報酬改定に対応した新たな施設基準の取得 などに取り組み、収益向上を図る。
- ・また、設備投資については老朽化が顕著なものや働き方改革などに寄与するものを選定するとともに、既存事業については、電力会社や医薬品などの各種契約内容の見直しに取り組み一層の経費削減に努める。

② 災害対応

- ・地震、水害等の大規模災害の発生に備え、災害医療の充実を図るため、訓練や人材育成の取り組みを進めるとともに、災害発生時の事業継続計画（BCP）の見直しや避難計画の策定を進める。
- ・特に、洪水時は最大3mから5mの浸水が想定される地域に立地していることを踏まえ、水害対策への対応を急ぐ。【新規】

(2) 重要施策

③DX（デジタルトランスフォーメーション）の推進

- ・ 病院におけるデジタル化を推進し、生産性の向上を図る。
- ・ 令和5年度に民間から登用した最高情報責任者（CIO）の知見を活かし、業務の縮減や効率化、患者サービスの向上につながるデジタル化の検討を重点的に進める。
- ・ 急増する医療機関をターゲットとしたサイバー攻撃に対して、必要なセキュリティ対策を講じる。【新規】

④人材の確保・育成

- ・ 医師や看護師、コメディカル、事務職の人材確保のため、大学医局やキャリアセンターへの働きかけ、人材紹介会社の活用、インターンシップの充実、多様な媒体による採用情報の発信など、引き続き、人材確保に向けて積極的に取り組むとともに、障害者雇用にも注力する。
- ・ 診療情報管理士の取得や経営大学院の受講に対する支援、リスク管理やハラスメント防止に向けた研修に力を注ぐ。

(2) 重要施策

⑤ブランディングの推進

- ・令和5年6月に創立100周年を迎え、様々な関連事業を実施したところであるが、令和6年度は次の100年に向け、地域貢献や情報発信などによりブランディングを推進する。
- ・具体的には、X（旧：Twitter）やInstagramなどSNSの導入や、統一的なビジュアルツール（スライド、レターヘッド）を作成し、最新の情報を発信する。【新規】
- ・ラジオ番組『水戸日赤の今日もおだいじに』に、新たにリスナーからの質問に答えるコーナーやプレゼント企画を加え、地域住民（リスナー）参加型にするなど、地域貢献にも取り組む。【新規】

⑥将来構想への対応

- ・水戸地域医療構想を踏まえ、本構想区域内の6病院（水戸済生会病院、水戸協同病院、県立中央病院、水戸医療センター、県立こども病院及び当院）を中心に医療機能の分化を促進するため、県及び医師会とも連携しながら、具体的な検討を進める。
- ・併せて令和5年度に策定した「新棟建設等基本構想」に基づき、新病棟の建設を含めた将来のあり方について検討を重ねる。

(3) 重要指標

① 1日平均患者数

外来患者	
------	--

単位：人

R6年度計画	730
R5年度計画	770
R5年度決算見込	714

入院患者	
------	--

単位：人

R6年度計画	220
R5年度計画	220
R5年度決算見込	206

② 1人1日当り患者収益

外来患者	
------	--

単位：円

R6年度計画	22,000
R5年度計画	20,200
R5年度決算見込	20,886

入院患者	
------	--

単位：円

R6年度計画	64,500
R5年度計画	65,900
R5年度決算見込	62,821

2. 令和6年度歳入歳出予算

- ・ 収益的収入及び支出

① 病院収益

単位：千円

	入院診療収益	外来診療収益	その他の 医業収益	医業外収益等	合計
R6年度予算	5,179,350	3,886,520	333,169	310,287	9,709,326
R5年度予算	5,306,268	3,764,068	324,365	319,838	9,714,539
R5年度決算見込	4,595,995	3,631,614	321,799	381,487	8,930,895

・ 収益的収入及び支出

②病院費用

単位：千円

	材料費	給与費	その他の 医業費用	医業外費用等	合計
R6年度予算	2,600,788	5,147,834	1,753,534	200,695	9,702,851
R5年度予算	2,522,498	5,141,873	1,850,729	196,326	9,711,426
R5年度決算見込	2,723,569	5,250,454	1,895,848	312,567	10,182,438

・ 収益的収入及び支出

③収支差引

単位：千円

	収 入	支 出	差 引
R6年度予算	9,709,326	9,702,851	6,475
R5年度予算	9,714,539	9,711,426	3,113
R5年度決算見込	8,930,895	10,182,438	▲1,251,543

令和6年度事業計画 及び医療特別会計歳入歳出予算



古河赤十字病院

1. 令和6年度事業計画

(1) 病院の特徴

①病床数 許可病床：200床 実働病床：200床

②診療科 27診療科

③特 徴

- ・ 地域災害拠点病院
- ・ 紹介受診重点医療機関
- ・ 病院群輪番制病院
- ・ 小児救急二次輪番病院
- ・ 在宅医療参入促進連絡医療機関
- ・ 自治医科大学古河地域臨床教育センター
- ・ 地域医療支援病院
- ・ 第二次救急医療施設
- ・ 第二種感染症指定医療機関
- ・ 病院機能評価認定施設
- ・ 地域包括ケア病棟（50床）
- ・ 救急救命士実習病院 他

④職員数 372人(常勤換算数)

医 師： 36人 看護師：186人

医療技術者：65人 その他：85人

(2) 重要施策

- ① 医業収益の緊急改善対策
- ② 地域医療構想における当院病床機能の検討
- ③ 令和6年度診療報酬改定への対応
- ④ 医療DX（デジタルトランスフォーメーション）の推進

(2) 重要施策

① 医業収益の緊急改善対策

○ 救急受入れの強化

- ・ 非常勤救急医の雇用拡大と院内の意識改革により救急車受入れ台数の増加を図る（目標2,000台/年）とともに、より重症度の高い救急患者の受入れにより入院診療単価の改善を図る。

○ 紹介患者対策 **【新規】**

- ・ 新型コロナウイルス感染症による病院運営への影響が減少し、当院も紹介受診重点医療機関として紹介患者の受入れ強化を図る必要があることから、診療所や施設との関係強化のため、担当医師による訪問活動を積極的に行う。

○ 外来コンサルテーション強化 **【新規】**

- ・ 各診療科から外部への紹介による収益損失を防ぐため、極力院内でのコンサルテーションを行い外来の収益性を高める。

○ 当院健診で二次検査が必要な方の受入れ強化 **【新規】**

- ・ 当院の健診受診者が、健診結果により精査の必要性がある場合、当院外来で円滑な受診ができるよう改善を図る。

②地域医療構想における当院病床機能の検討 **【新規】**

- ・ 当院の重症患者の受入機能を強化するためにHCUが必要である。当院が属する古河・坂東医療圏で高度急性期病床が不足していることを踏まえ、地域医療構想会議においても増床を要望していく。

③令和6年度診療報酬改定への対応 **【新規】**

- ・ 経営への診療報酬改定のインパクトを最小限に留め、今後の医療政策の方向性を見据えながら、当院の医療機能や地域での役割を再検討する。

④DX（デジタルトランスフォーメーション）の推進

○次期電子カルテシステムについて

- ・ 2025年（令和7年）前期に部門システムを含めた更新を予定している。この機会を活かし、DXの活用やシステム運用の再設計による業務効率化、セキュリティー対策の強化し、安心安全で効率の高いシステムの構築を目指すために十分な検討及び選定を行う。

○病院業務のDX化

- ・ 病院業務におけるDX検討は、パイロット病院としてITコーディネータ茨城によるヒアリングを終了し、AI-OCR（画像から文字認識しデータ化する機能）などに取り組む。

(3) 重要指標

① 1日平均患者数

① 外来

単位：人

R 6 年度計画	400
R 5 年度計画	410
R 5 年度決算見込	390

② 入院

単位：人

R 6 年度計画	144
R 5 年度計画	146
R 5 年度決算見込	120

② 1人1日当り患者収益

① 外来

単位：円

R 6 年度計画	13,500
R 5 年度計画	13,700
R 5 年度決算見込	13,000

② 入院

単位：円

R 6 年度計画	53,000
R 5 年度計画	54,000
R 5 年度決算見込	52,200

2. 令和6年度歳入歳出予算

・ 収益的収入及び支出

① 病院収益

単位：千円

	入院診療収益	外来診療収益	その他の 医業収益	医業外収益等	合計
R6年度予算	2,785,680	1,425,600	355,054	84,580	4,650,914
R5年度予算	2,885,544	1,494,122	332,938	87,870	4,800,474
R5年度決算見込	2,292,624	1,348,620	329,134	138,912	4,109,290

・ 収益的収入及び支出

②病院費用

単位：千円

	材料費	給与費	その他の 医業費用	医業外費用等	合計
R6年度予算	878,000	2,619,956	1,068,010	84,891	4,650,857
R5年度予算	866,600	2,747,639	1,096,633	89,034	4,799,906
R5年度決算見込	878,919	2,628,673	1,058,106	91,318	4,657,016

・ 収益的収入及び支出

③収支差引

単位：千円

	収 入	支 出	差 引
R6年度予算	4,650,914	4,650,857	57
R5年度予算	4,800,474	4,799,906	568
R5年度決算見込	4,109,290	4,657,016	▲547,726

令和6年度事業計画 及び社会福祉施設特別会計歳入 歳出予算



支部乳児院

1. 令和6年度事業計画

(1) 乳児院の概要

① 児童福祉法に基づき認可・設立

- ・ 家庭の様々な事情により養育困難な乳幼児を、県内の児童相談所より、措置・一時保護として預かり、昼夜にわたり必要な期間養育を行っています。

② 入所定員 38人

③ 職員数 49人

医師：1人 嘱託医：1人

看護師・保育士：35人

栄養士：1人 その他：11人

(2) 重要施策

① 安心安全な生活環境の提供

- ・入所児個々の発達段階に応じた養育により、子どもたちが健やかに成長できる生活の場を提供し、家庭的養育を目指した、きめ細やかなケアに取り組む。

② 広く地域に開かれた子育て支援事業

- ・乳児院の持つ専門性を活かし、子育て家庭に役立つ情報を提供することにより、地域の子どもたちの健やかな成長の支援を行う。
- ・ショートステイ（子育て短期支援）を実施する。
- ・里親委託の支援を推進する。

③ 施設が有している資源等の活用

- ・近隣の医療施設と連携し、病虚弱児の受入れを行う。
- ・茨城県児童福祉施設協議会主催の行事開催時など、救護のため看護師を派遣する。
- ・実習生（保育・看護）の受入を行う。

④ 職員の質の向上と人材育成

- ・各種研修会へ積極的に参加し、職員の質の向上を図る。
- ・他施設（日赤乳児院・県内乳児院）への短期実地研修に参加する。

⑤ デジタル化の推進

- ・出退勤管理システムの本格稼働 ・院内のWi-Fi環境整備 **【新規】**
- ・電子カルテ（保育記録システム）の導入に向けた準備 **【新規】**

2. 令和6年度歳入歳出予算

収 入

単位：千円

	R6年度予算	R5年度予算	増 減	備 考
事業活動収入	289,563	279,937	9,626	・措置費（事務費・事業費）他
その他活動収入	58,214	37,354	20,860	・退職給与 他
前年度繰越金	86,833	84,591	2,242	
合 計	434,610	401,882	32,728	

支 出

単位：千円

	R6年度予算	R5年度予算	増 減	備 考
事業活動支出	367,617	333,289	34,328	・人件費、消耗品費、水道光熱費、修繕費 他
施設整備等支出	5,000	1,000	4,000	・器具及び備品費
その他活動支出	12,589	12,304	285	・退職拠出金
予備費	1,500	1,500	0	
合 計	386,706	348,093	38,613	

※ 収入では、措置費保護単価の増額および入所児数増を見込んだ予算計上とし、
 支出では、人件費増による支出増となっている。

令和6年度事業計画



茨城県
赤十字血液センター 

1. 令和6年度事業計画

(1) センターの現状

- ・ 施設：血液センター（茨城町） 供給出張所（つくば市）
献血ルーム（つくば市・水戸市）

※ つくば献血ルームは、2024年3月1日にトナリエつくばスクエア CREOに移転し、新規オープン予定
ベッド数13→15へ増床

- ・ 職員数：正規職員 115名 常勤嘱託等 66名
- ・ 車両：移動採血車 7台 献血運搬車 15台
その他車両 19台
- ・ 移動採血：1日3～4台 年間延べ約1,200台稼働

(2) 主な事業内容

① 需給管理機能の向上

- ・ 血液製剤の安定した在庫量を保有し、医療機関の需要に対する安定供給の確保
- ・ 医療機関からの情報収集による高精度な需要及び在庫予測の実現

② 供給体制の改善の推進

- ・ 定時配送率の向上及び、2024年4月からWeb受注システムへの切り替え

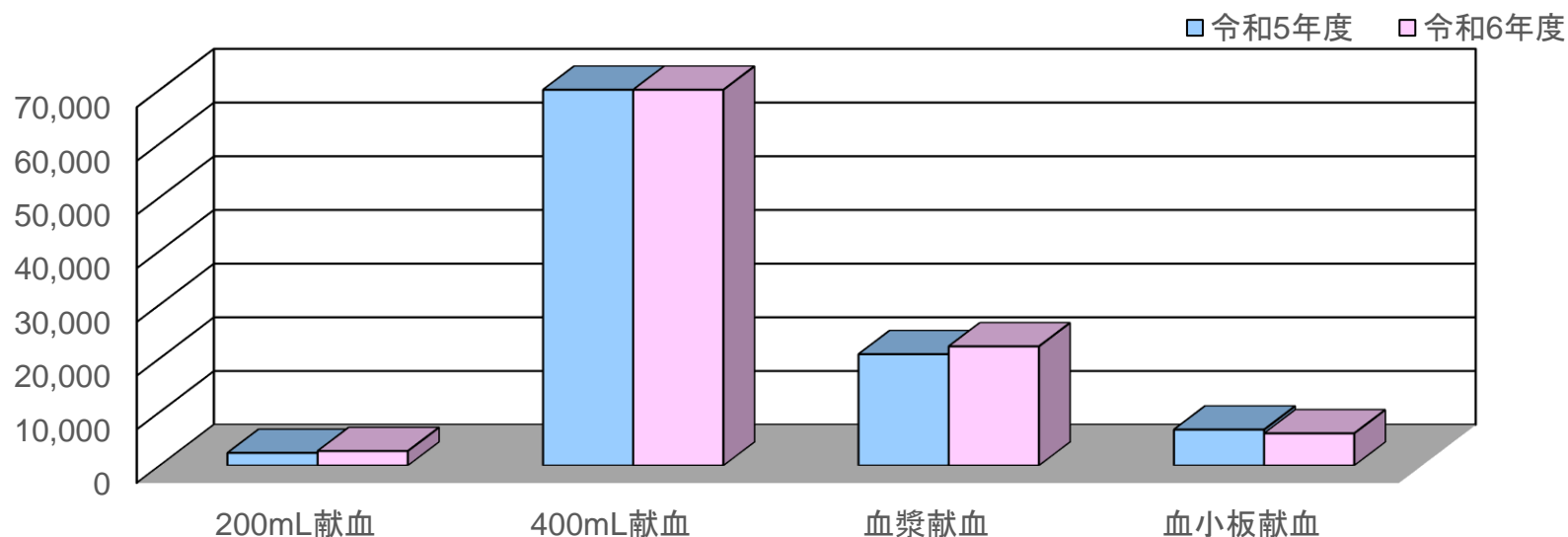
③ 効率的な献血の推進

- ・ ラブラッドの活用等による予約献血の更なる推進
- ・ 企業・学校・団体への献血協力依頼の強化
- ・ 若年層に対する普及啓発（献血セミナー等）
- ・ 子育て世代が流入しているTX沿線都市への広報の強化 **【新規】**

(3) 採血計画

(単位：本)

項目	令和6年度計画 (A)	令和5年度計画 (B)	令和5年度実績見込	対前年計画比 (A) / (B)
計画数 (合計)	103,562	102,403	102,501	101.1%
(内訳) 200mL献血	2,706	2,359	3,371	114.7%
400mL献血	72,656	72,599	70,469	100.1%
血漿献血	22,200	20,745	22,521	107.0%
血小板献血	6,000	6,700	6,140	89.6%

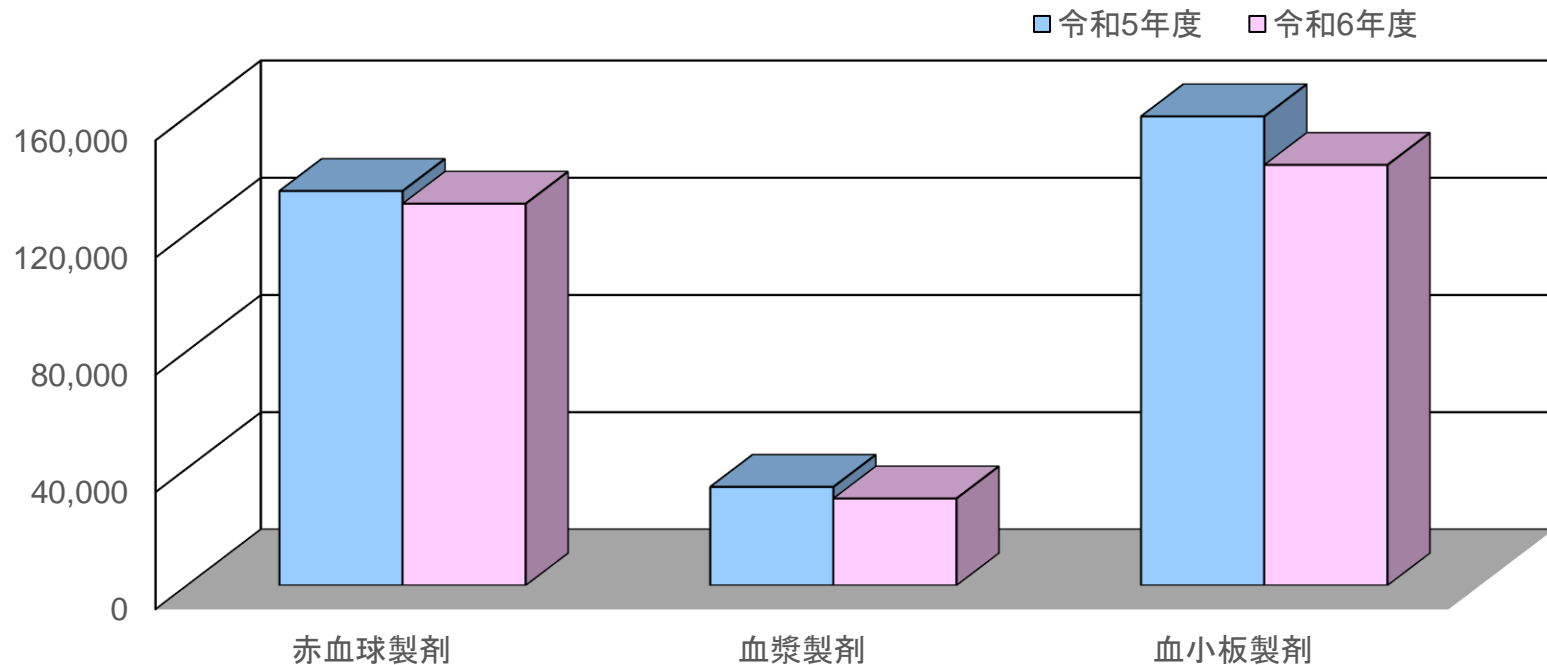


※採血計画数はブロック内の役割分担に基づき各地域センターに案分される。

(4) 供給計画

(単位：200mL換算)

項目	令和6年度計画 (A)	令和5年度計画 (B)	令和5年度実績見込	対前年計画比 (A) / (B)
計画数(合計)	303,304	334,259	315,818	90.7%
(内訳) 赤血球製剤	130,217	134,559	132,092	96.8%
血漿製剤	29,647	33,600	33,076	88.2%
血小板製剤	143,440	166,100	150,650	86.4%



(5) 原料血漿確保計画

(単位：リットル)

項目	令和6年度計画 (A)	令和5年度計画 (B)	対前年計画比 (A) / (B)
確保目標量	28,759	27,966	102.8%

■ 令和5年度 ■ 令和6年度

